

かあちゃんはブルドーザー

塩見 しおみ
純平 じゅんぺい

「純平、早く起きなさい。」

一日は、かあちゃんの大声ではじまります。何度も何度も起こしてくれるのですが、なかなか起きられずにいるほくをかあちゃんは足をひきずってリビングまで運んできます。しかたなく目を覚ますほくです。

この前の話です。かあちゃんは片付けをしないとすごくしかります。

「自分の使ったものは自分で片付けなさい。」

その言葉はよくわかるのですが、ほくは遊んでいると次々夢中になることが多くてすぐに忘れてしまいます。そしてある日とても机の上も部屋もすっきりしていました。よくみるとほくの本もおもちゃもカードも全て庭のシートの上にも山積みになっているのです。ほくが目を丸々としているとかあちゃんが、

「ああきれいに片付いたでしょう。」

と、得意げな顔をしてほくを横目でみていました。ほくはまるでブルドーザーみたいだと思いました。

かあちゃんとはかくバワフルです。ほくは、四人兄弟の末っ子です。とうちゃんが単身ふにんで週末しか帰ってこ

ないので、全てかあちゃんがほく達の世話をしてくれています。朝五時から起きて、お弁当作りからはじまり、そうじやせんたく最後にほくを学校に送り出してから仕事に出かけています。最近は大イェットだといいなながら夜の散歩をします。この前は四人がいつしよに散歩につきあってあげました。カエルのなき声を聞きながら時々かあちゃんのおいを感じながらの夜の散歩道はとてもいごちがよかったです。

そんなかあちゃんは、高校野球をみて泣きドラマをみて泣いてとても泣き虫になりました。いつも大声でバワフルだけど、一度だけほくをしかるかあちゃんが涙を流したことがあります。それは、雨の中家を飛び出してしまった時です。ほくが悪いのはわかっているけどほくもあやまれずにいます。

「自由な時と、そうでない時と、メリハリを付けていこうと思います。もう迷惑をかけない様に相手の気持ちを考えてる人になりたいです。いつもごめんなさい。そしてありがとう。ブルドーザーみたいなかあちゃんですがほくは大好きです。」